



平成28年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年11月6日

上場取引所 東名

上場会社名 井村屋グループ株式会社
コード番号 2209 URL <http://www.imuraya-group.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長
問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役部門統括
四半期報告書提出予定日 平成27年11月9日

(氏名) 寺家 正昭
(氏名) 大西 安樹

TEL 059-234-2146

配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第2四半期の連結業績(平成27年4月1日～平成27年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第2四半期	17,996	4.0	298	24.4	360	3.1	151	△31.3
27年3月期第2四半期	17,298	△1.2	239	△3.8	349	6.9	219	68.9

(注)包括利益 28年3月期第2四半期 65百万円 (△69.4%) 27年3月期第2四半期 213百万円 (23.0%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第2四半期	6.24	—
27年3月期第2四半期	9.03	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年3月期第2四半期	24,731	10,869	43.8
27年3月期	24,985	11,047	44.1

(参考)自己資本 28年3月期第2四半期 10,840百万円 27年3月期 11,018百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	0.00	—	10.00	10.00
28年3月期	—	0.00	—	—	—
28年3月期(予想)	—	—	—	10.00	10.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年3月期の連結業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	38,000	4.5	800	79.0	950	35.6	450	18.0	18.57

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	28年3月期2Q	25,644,400 株	27年3月期	25,644,400 株
② 期末自己株式数	28年3月期2Q	1,417,412 株	27年3月期	1,416,400 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	28年3月期2Q	24,227,619 株	27年3月期2Q	24,352,100 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
(4) 追加情報	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(セグメント情報等)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善が続く中で、企業収益にも上昇傾向が見られ、緩やかな回復基調となりましたが、中国の経済減速をはじめとする海外景気の下振れ懸念などにより、先行き不透明な状況で推移しました。

菓子・食品業界におきましても、企業間の競争が激化する中で、円安基調が続く為替の影響から原材料費の高止まりが続く状況であり、厳しい経営環境で推移しました。

このような状況のもと、当社グループは新中期3カ年計画「One imuraya 2017」の初年度にあたり、確実な目標達成に向け、顧客へ新しい付加価値を提供し続ける「NEWの創造」をテーマに、二つのNとして「NEW」と「NEXT」をキーワードに特色のある商品提案と積極的な販売促進活動を展開しました。

海外貿易におきましても、ASEANを中心に各国の展示会、商談会に積極的に参加し、新規ルートの開拓やマーケットへの商品導入に取り組んでおります。

品質面では、井村屋シーズニング株式会社につき、井村屋株式会社においてもFSSC22000（食品安全管理システム認証22000）取得に取り組み、確実な食品安全体制の確立を目指しております。

また、社員一人一人の働きがいと成長、そして次世代への人材育成に向けて、4月より新人事制度を導入しました。さらに、事業活動の基軸として全グループで取り組んでいる「経営品質向上活動」により、業務改善や意識変革に成果があらわれつつあります。

当第2四半期連結累計期間における当社グループの売上高は、上期の主力商品である冷菓商品において、「あずきバー」シリーズに加え、新たに投入した「ゴールドあずきバー」シリーズが好評をいただくとともに、「やわもちアイス」シリーズも引き続き好調に推移しました。また、冬物商品の“肉まん・あんまん類”では、付加価値の高い商品として評価をいただいている「ゴールドまん」シリーズが今期も順調な立ち上がりとなって売上が増加し、連結売上高は前年同期比6億98百万円（4.0%）増の179億96百万円となり、上期において過去最高の売上高となりました。

売上高の増加に伴う差益の増加に加え、コスト面では、原材料費の高止まりが続く中、バイオマスボイラの導入効果等により動燃費が減少し、また、SCMの効果により在庫圧縮が図られ、保管料を中心に物流コストが減少しました。その結果、営業利益は前年同期比58百万円（24.4%）増の2億98百万円となり、経常利益は為替差益減少（57百万円）の影響がありましたが、前年同期比10百万円（3.1%）増の3億60百万円となり、4期連続の増益となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は前期に設備投資に対する国庫補助金を特別利益に計上したことにより、前年同期より68百万円（31.3%）減の1億51百万円となりましたが、第2四半期の業績予想数値1億50百万円に対し計画に沿った結果となりました。

各セグメントの概況は次のとおりであります。

① 流通事業

流通事業におけるカテゴリー別の概況につきましては以下のとおりです。

(菓子・食品・デイリーチルド)

菓子については、新チャネルへの商品展開を進めている「ようかん類」で「えいようかん」や「スポーツようかんプラス」また、「招福羊羹シリーズ」が堅調に推移しました。上期では水ようかんギフトとして「ゴールド水ようかん」が好評をいただきましたが、下期には「ようかん類」においても「ゴールドようかん」を発売し、より付加価値の高い商品戦略を展開してまいります。

焼き菓子では成長戦略商品に位置付けている「どら焼き」において「あんこたっぷり和菓子屋のどら焼き」シリーズが小売店で個食向け商品として好評をいただき好調に推移しました。9月からは上質感のある「あんこたっぷり和菓子屋のどら焼き」ギフトを発売し、販路拡大を進めております。

「カステラ類」は日本国内でコンビニエンスストア向けの商品が伸長し、中国の井村屋（北京）食品有限公司（IBF）から米国への輸出が増加しました。また、中国国内では新チャネルへの商品提案が進んでおり、今後の売上増加に期待がもてる状況となっております。その結果、菓子全体の売上高は、前年同期比43百万円（1.7%）増の26億51百万円となりました。

食品については、定番商品である「ゆであずき」や「お赤飯の素」の売上が増加するとともに、夏物商品でスパウチタイプの新商品「こだわりの氷みつ」が好評をいただき、ホットデザートではコラボ商品として発売した「まる餅付大納言小豆ぜんざい」も順調に推移しました。

冷凍食品では「ゴールドまん」シリーズに新たに「2個入りゴールド牛すきまん」を発売し、順調な立ち上がりとなりました。日本フード株式会社でのOEM受託商品の売上も増加し、食品全体の売上高は前年同期比2億9百万円(9.3%)増の24億66百万円となりました。

デイリーチルド商品では、チルドタイプの「3個入りゴールド牛すきまん」を発売し「ゴールドまん」シリーズが順調に推移しました。「豆腐類」では「美し豆腐」を中心に業務用商品やコンビニエンスストアとのコラボ商品の売上が増加しました。その結果、デイリーチルドの売上高は、前年同期比46百万円(7.0%)増の7億5百万円となりました。また、豆腐事業で新機能豆腐として「高カロリー豆腐」の商品化を進め、10月より発売を開始しました。取り組んでいるSOY(大豆)事業への変革として新たな事業展開を進めてまいります。

(冷蔵・加温)

冷蔵商品は、付加価値の高いプレミアム商品として発売した「ゴールドあずきバー」シリーズは「2015日本パッケージングコンテスト」の「包装技術賞部門 パッケージデザイン賞」を受賞し、パッケージデザインとしても高い評価をいただいております。「あずきバー」シリーズ全体では4月～9月の売上本数は1億98百万本(前年同期比1.4%増)となり、「やわもちアイス」シリーズも「やわもちアイス最中」の売上が増加し、引き続き好調に推移しました。また、フランスのクリームチーズNo.1ブランドkiri®とのコラボ商品として9月より発売した新商品「クリームチーズアイス」が井村屋の本格的なデザートアイスとして注目を集め、売上が好調に推移しております。米国でアイス事業を展開しているIMURAYA USA, INC.においてもOEM受託商品に加え、井村屋ブランド商品の大手量販店への導入が順調に進み、売上の増加に貢献いたしました。その結果、冷蔵商品の売上高は、前年同期比2億55百万円(3.4%)増の77億33百万円となりました。

「肉まん・あんまん」などの加温商品は、SNSを活用した販売促進やキャンペーンを計画的に実施してまいりましたが、付加価値の高い商品提案によりコンビニエンスストアへの導入アイテムが増加し、加温商品の売上高は前年同期比1億1百万円(5.3%)増の19億97百万円と順調な立ち上がりとなりました。食品カテゴリーの「冷凍まん」、デイリーチルドカテゴリーの「チルドまん」を含めた「肉まん・あんまん」類の売上高は前年同期比1億59百万円(7.0%)増の24億9百万円となり、本格的なシーズンに向け期待がもてる状況となっております。

(スイーツ)

「アンナミラズ」「ジュヴォー」のブランドを活かした事業展開を行っているスイーツでは、アンナミラズ高輪店が引き続き堅調に推移しました。「ジュヴォー」においてもジェイアール名古屋タカシマヤで開催された「フランス展」に初出店し、好評をいただくなど催事販売の効果により認知度が高まり、店舗での売上が増加いたしました。また中国天津で2店舗を出店している「アンナミラズ」もブランドの認知度が高まっており、スイーツ全体の売上高は前年同期比11百万円(6.7%)増の1億76百万円となりました。

この結果、流通事業の売上高は、前年同期比6億67百万円(4.4%)増の157億32百万円となり、セグメント利益(営業利益)は前年同期比32百万円(4.0%)増の8億46百万円となりました。

② 調味料事業

国内では井村屋シーズニング株式会社が、顧客ニーズに対応した新規テーマの取り組みと新規ルート開拓を進め、自社開発商品とOEMに加えて、ODM(Original Design Manufacturing)市場での新規顧客獲得やハラル認証を活用した商品提案に取り組みました。売上は前年並みとなりましたが、差益の改善が図られるとともに、生産性向上への取り組みにより、労務費やエネルギーコストが削減され、損益面では前年同期を上回りました。

中国の調味料事業では北京での販売と大連での生産という2拠点体制で成長戦略と効率化に取り組んでおります。北京の北京京日井村屋食品有限公司(JIF)では積極的な市場開拓を押し進め中国国内の売上が増加し、大連の井村屋(大連)食品有限公司(IDF)も本格的な生産体制を整え、製造コスト低減に取り組んでおります。

この結果、調味料事業の売上高は前年同期比24百万円(1.1%)増の21億56百万円となり、セグメント利益(営業利益)は前年同期比14百万円(45.1%)増の46百万円となりました。

③ その他の事業

イムラ株式会社が行っているリースや保険の代理業は堅調に推移し、井村屋商品のアウトレット販売を行っております「MOTTAINAI屋」は地域住民から引き続き好評をいただきました。また、本社所在地である三重県津市の近鉄津駅構内に出店している「imuraya Sweets Shop irodori」では、店舗の改装を行うとともに、認知度の向上と集客数の増加に向けた企画を実施し、売上が順調に推移しております。その結果、その他の事業の売上高は1億7百万円となり、セグメント利益(営業利益)は11百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間の財政状態は以下のとおりであります。

総資産は247億31百万円となり、前連結会計年度末に比べ2億53百万円の減少となりました。流動資産は、前連結会計年度末と同様の99億4百万円となりました。固定資産は、有形固定資産の減価償却や、投資有価証券の時価評価額の減少等により、2億43百万円減の147億93百万円となりました。

負債は138億61百万円となり、前連結会計年度末に比べ75百万円の減少となりました。流動負債は、冬物商品の生産に連動した支払手形及び買掛金、未払金の増加等により、2億74百万円増の117億20百万円となりました。固定負債は、長期借入金の短期借入金への振替や、リース債務の減少、退職給付に係る負債の減少等により、3億50百万円減の21億41百万円となりました。

純資産は配当金の支払等により、1億77百万円減の108億69百万円となりました。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末44.1%から43.8%へ減少しました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第3四半期に向けて、冬場の主力商品である「肉まん・あんまん」を中心とする加温商品の売上増加が見込まれますので、平成27年5月8日付の「平成27年3月期決算短信」において公表いたしました業績予想につきましては現時点では変更はありません。

ただし、景気の停滞や世界的な経済状況の変動、原材料の高騰などの環境変化によって業績予想の修正が必要であると判断される場合は、速やかに開示いたします。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(4) 追加情報

「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日)第39項に掲げられた定め等を適用し、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	973,795	800,290
受取手形及び売掛金	5,389,239	5,352,732
商品及び製品	1,784,809	2,181,008
仕掛品	299,595	300,489
原材料及び貯蔵品	493,592	503,154
その他	964,667	767,798
貸倒引当金	△1,204	△1,282
流動資産合計	9,904,495	9,904,191
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	13,321,505	13,358,634
減価償却累計額	△8,355,016	△8,468,498
建物及び構築物(純額)	4,966,488	4,890,135
土地	4,268,751	4,268,751
その他	14,823,921	14,704,152
減価償却累計額	△11,722,907	△11,594,099
その他(純額)	3,101,014	3,110,052
有形固定資産合計	12,336,254	12,268,939
無形固定資産		
その他	138,949	148,266
無形固定資産合計	138,949	148,266
投資その他の資産		
投資有価証券	2,035,854	1,927,036
退職給付に係る資産	93,584	107,504
その他	458,265	367,257
貸倒引当金	△25,325	△25,325
投資その他の資産合計	2,562,379	2,376,473
固定資産合計	15,037,583	14,793,680
繰延資産	43,011	33,994
資産合計	24,985,091	24,731,866

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,818,653	4,143,021
短期借入金	3,540,000	3,520,000
1年内返済予定の長期借入金	425,283	274,971
未払金	1,709,768	2,229,223
賞与引当金	461,295	552,405
その他	1,491,141	1,001,259
流動負債合計	11,446,141	11,720,879
固定負債		
長期借入金	300,204	200,292
引当金	15,120	17,010
退職給付に係る負債	274,776	228,442
資産除去債務	30,592	30,592
その他	1,870,628	1,664,684
固定負債合計	2,491,321	2,141,021
負債合計	13,937,462	13,861,900
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,253,900	2,253,900
資本剰余金	2,240,523	2,240,523
利益剰余金	4,749,508	4,658,355
自己株式	△671,372	△672,033
株主資本合計	8,572,559	8,480,746
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	359,887	278,752
土地再評価差額金	1,920,482	1,920,482
為替換算調整勘定	△9,621	2,990
退職給付に係る調整累計額	175,169	157,126
その他の包括利益累計額合計	2,445,917	2,359,352
非支配株主持分	29,151	29,867
純資産合計	11,047,628	10,869,966
負債純資産合計	24,985,091	24,731,866

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
売上高	17,298,621	17,996,820
売上原価	11,746,457	12,093,631
売上総利益	5,552,163	5,903,189
販売費及び一般管理費	5,312,327	5,604,759
営業利益	239,836	298,429
営業外収益		
受取配当金	24,390	29,805
雑収入	26,010	33,037
受取家賃	19,913	20,497
為替差益	56,926	-
その他	7,696	4,468
営業外収益合計	134,936	87,809
営業外費用		
支払利息	24,587	23,441
その他	535	2,252
営業外費用合計	25,123	25,694
経常利益	349,650	360,545
特別利益		
出資金売却益	-	13,225
補助金収入	127,999	43,766
特別利益合計	127,999	56,992
特別損失		
固定資産除却損	31,410	61,236
減損損失	-	339
特別損失合計	31,410	61,575
税金等調整前四半期純利益	446,239	355,962
法人税、住民税及び事業税	177,285	237,794
法人税等調整額	49,840	△32,923
法人税等合計	227,125	204,871
四半期純利益	219,114	151,091
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△820	△36
親会社株主に帰属する四半期純利益	219,935	151,127

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
四半期純利益	219,114	151,091
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	53,597	△81,135
繰延ヘッジ損益	85	-
為替換算調整勘定	△45,916	13,365
退職給付に係る調整額	△13,713	△18,042
その他の包括利益合計	△5,947	△85,812
四半期包括利益	213,167	65,278
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	215,400	64,562
非支配株主に係る四半期包括利益	△2,233	716

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	446,239	355,962
減価償却費	629,835	653,366
減損損失	-	339
開業費償却額	-	9,017
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△411	78
受取利息及び受取配当金	△27,437	△33,123
支払利息	24,587	23,441
為替差損益(△は益)	△56,926	154
固定資産除売却損益(△は益)	31,410	61,236
出資金売却益	-	△13,225
売上債権の増減額(△は増加)	△240,357	38,023
たな卸資産の増減額(△は増加)	△659,052	△404,150
仕入債務の増減額(△は減少)	463,990	324,367
未払金の増減額(△は減少)	149,456	458,148
未払消費税等の増減額(△は減少)	△20,211	△178,255
賞与引当金の増減額(△は減少)	86,167	91,109
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△20,000	-
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△64,141	△50,177
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	△33,665	△28,118
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△4,762	-
執行役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△1,260	1,890
その他	△280,408	△191,737
小計	423,053	1,118,345
利息及び配当金の受取額	32,324	33,123
利息の支払額	△24,587	△23,441
法人税等の支払額	△367,505	△115,842
営業活動によるキャッシュ・フロー	63,284	1,012,184
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額(△は増加)	△644	17
有形固定資産の取得による支出	△368,756	△487,988
有形固定資産の売却による収入	11,583	370
無形固定資産の取得による支出	△312	-
投資有価証券の取得による支出	△2,859	△3,033
貸付けによる支出	△24	△2,226
貸付金の回収による収入	715	1,213
その他	△24,495	△37,617
投資活動によるキャッシュ・フロー	△384,793	△529,264

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	850,000	△20,000
リース債務の返済による支出	△153,021	△155,185
長期借入金の返済による支出	△383,158	△250,224
自己株式の売却による収入	515	-
自己株式の取得による支出	△1,687	△660
配当金の支払額	△242,883	△242,196
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△81,767	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	△12,003	△668,267
現金及び現金同等物に係る換算差額	52,348	11,860
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△281,164	△173,486
現金及び現金同等物の期首残高	1,783,600	965,106
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	150,000	-
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,652,436	791,619

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	流通事業	調味料事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	15,065,270	2,132,461	17,197,732	100,889	17,298,621
セグメント間の内部売上高 又は振替高	44,811	47,250	92,062	158	92,220
計	15,110,081	2,179,712	17,289,794	101,047	17,390,842
セグメント利益	814,731	32,013	846,745	21,063	867,808

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産の賃貸管理業及び損害保険代理業、リース代理業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	846,745
「その他」の区分の利益	21,063
全社費用(注)	△627,971
四半期連結損益計算書の営業利益	239,836

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	流通事業	調味料事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	15,732,399	2,156,702	17,889,102	107,718	17,996,820
セグメント間の内部売上高 又は振替高	39,107	41,629	80,736	295	81,031
計	15,771,506	2,198,332	17,969,839	108,013	18,077,852
セグメント利益	846,963	46,454	893,417	11,435	904,852

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産の賃貸管理業及び損害保険代理業、リース代理業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	893,417
「その他」の区分の利益	11,435
全社費用(注)	△606,422
四半期連結損益計算書の営業利益	298,429

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。